

地域に根差し、 多職種との連携を強化 —業界初の薬局のセカンドオピニオン—

株式会社トラストファーマシーは南関東を中心に24店舗を展開し、日本一の「ありがとう薬局」×「まごころ介護」をスローガンに管理栄養士の常駐や業界初の薬局のセカンドオピニオンの実施など新たな試みを行っています。同社が運営するたから薬局ユーカリが丘店も管理栄養士常駐の店舗として2018年5月に開局されました。

松浦憲司先生は、薬剤師でありながらライフワークとして栄養学を学んでおり、その豊富な知識と経験そして相手に親身に寄り添う人柄に、患者様からは「この薬局はここまでやってくれるのか」という声があがるほどです。松浦憲司先生・本社の白水崇雄常務取締役・小沼美佐部長（薬剤師）に新店舗ならではの苦勞、医師・患者様との信頼関係構築と今後の展望について伺いました。



たから薬局ユーカリが丘店
薬局長 薬剤師
松浦 憲司先生



株式会社トラストファーマシー
常務取締役
白水 崇雄氏



株式会社トラストファーマシー
薬局事業部 部長 薬剤師
小沼 美佐先生



たから薬局ユーカリが丘店 外観

Question 01

貴店の概要を
教えてください。

Answer

松浦先生：2018年5月に株式会社トラストファーマシーの唯一の千葉県店舗として開局いたしました。現在、医療事務兼管理栄養士1名、薬剤師2名体制で勤務しています。応需医療機関数は約50、主に隣接する耳鼻科クリニックからの処方箋を扱っており、処方箋枚数は約70枚／日です。当店には、年齢0～99歳まで幅広い年齢の患者様が来局されており、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、めまい、耳鳴り、難聴などのいわゆる耳鼻科の疾患が中心ですが、それ以外にも味覚障害や嗅覚障害といった特殊な疾患の患者様が来局されています。



Question 02 隣接する耳鼻科の医師とは どのように連携されていますか。

Answer

松浦先生：味覚障害や嗅覚障害の患者様を診察する医療機関は少ないのですが、隣接の耳鼻科クリニックは親身になって診察を行っています。その中で、私も気になった患者様が来局された際は医師に具体的な症状を教えてください、内容について調べて処方提案等を行っています。さらに、お互いに意見交換をして、処方を決定することもあります。また、連携の前提として、医師に信頼して頂くことが重要だと思っておりますので、開局当初から毎日コミュニケーションをとるように心掛けています。

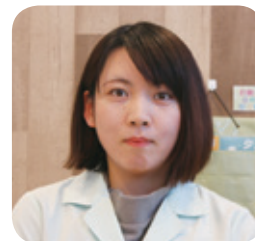
小沼部長：毎日医師を訪問して、患者様の状況を一緒に確認し、薬の提案ができることが理想ですが、実際にはとても難しいです。医師と保険薬局薬剤師、管理栄養士がそれぞれの立場で連携して、患者様をサポートし、実行しているユウカリが丘店は、とても理想の店舗です。



Question 03 常駐している管理栄養士の 仕事について教えてください。

Answer

松浦先生：普段は医療事務として業務を行いながら、薬剤師とペアで患者様のサポートを行っています。具体的には、薬剤師が服薬指導を行った際に、栄養に関係する生活指導が必要な患者様だと判断した場合には、管理栄養士の稲場綾子さんに対応してもらっています。このような患者様への栄養指導は日常的に行われており、その患者様が次回来局された際には、前回の内容を確認しつつ、経過観察も行っています。



管理栄養士 稲場 綾子さん

Question 04 常駐の管理栄養士を 採用した経緯を 教えてください。

Answer

白水常務取締役：管理栄養士を採用し始めたのは2008年からです。薬局の差別化を目的として、薬だけでなく、栄養や食事を含めたトータルサポートができることを目指しました。現在では、22名が医療事務というポジションを担いながら、管理栄養士が薬局にいる価値を患者様に提供しています。

管理栄養士への相談内容は店舗により様々です。医師から指示箋を出して頂き、弊社の管理栄養士が提携クリニックに出向いて栄養指導も実施しています。また介護保険を利用している在宅患者様に管理栄養士が訪問もしています。

小沼部長：弊社の管理栄養士の活動を耳にした医師からの依頼で、舌癌で舌を切除した患者様に、嚥下指導や食事指導を実施した例もあります。薬局管理栄養士へのニーズはたくさんあり、身近な薬局をもっと頼りにしてほしいと願っています。



Question 05 薬剤師である一方で、栄養学に関して 熱心に取り組むようになった きっかけを教えてください。

Answer

松浦先生：寝たきりの患者様に栄養指導や摂食・嚥下に関するリハビリを行う中で、その方が回復したことがきっかけです。最初は患者様のご家族の「最後は食べさせてあげたい」という強い要望がもとで始まりましたが、3年間でこの患者様は歩けるようになりました。栄養に関しても私が携わることで、患者様の生活をここまで変えられるということに感銘を受け、また、摂食・嚥下に詳しい医療従事者が少ないということも栄養学に熱心に取り組むようになったきっかけの一つです。

Question 06

来局患者様の年齢層が幅広い中で、
服薬指導で大切にされていることはありますか。

Answer

松浦先生：高齢者でも小児であっても、ちゃんと薬を飲めているのかを中心に服薬指導を行っています。高齢者であれば、薬が飲み込みづらいから飲まないという事があるため、その際は剤形を変更するアドバイスをします。小児に関しては、粉薬から錠剤・カプセル剤に変える時が難しく、うまく薬を飲めないことがありますので、簡易懸濁法をアドバイスとして取り入れています。これまで、簡易懸濁法は在宅などの高齢者の患者様に実施してきましたが、在宅業務の経験を活かして現在では子供への服薬指導でも実施しています。



Question 07

薬局のセカンドオピニオンについて
教えてください。

Answer

白水常務取締役：受診の際に、医師に本音で相談できる患者様は多くはないと思います。そのような患者様に、弊社の薬剤師と管理栄養士が親身になって第2の相談窓口として、さらに薬局の付加価値として、薬局のセカンドオピニオンを始めました。

例えば、長年通院していても病状も回復せず、薬もずっと同じで悩んでいると訴える患者様には、医療機関を変えてみるという選択肢もあるかもしれません。

我々は患者様に寄り添い、医療と介護のハブの役割を担っていきたいと思っています。

Question 08

薬局のセカンドオピニオン
で印象に残っていることを
教えてください。

Answer

松浦先生：現在、ユウカリが丘店では14名の患者様に薬局のセカンドオピニオンを実施しています。その中で、耳が聞こえないという症状で耳鼻科を受診し、来局された患者様がいらっしゃいました。会話の中でMCI(軽度認知障害)を疑う症状を感じ、服薬指導の際に私が認知症認定の薬剤師であることも含めてお話を伺うと、ご家族の方からご自宅での認知症に関係のありそうな症状を確認することができました。また、実際に患者様に認知症の簡易テストを行い、その結果をもとに認知症の診療科がある病院に紹介状を書きました。受診の結果、この患者様は認知症の初期症状であることがわかり、現在は認知症の治療が始まっています。

このように、「どう対処したらよいのかかわからない」、「どの医療従事者に相談すればよいのかかわからない」という患者様に対してきっかけ作りができればよいと思っています。

Question 09

今後の展望を教えてください。

Answer

松浦先生：私たちはこの街では新参者ですので、薬局のセカンドオピニオンも知っていただきながら、何かあったら頼れる薬局にしていきたいと思っています。そのために、患者様の背景を探るという意味で、バイタルを確認しながら薬の効果や副作用をチェックしています。直接触れることも大切で、安心感があるという言葉もいただきますし、信頼関係を築くこともできると思います。このバイタルチェックもひとつの武器として今後も私の経験を活かし、色々な人に「たから薬局」を知って頂ければ嬉しいです。

